

広告

「FJT制度」。太陽光発電などの再生可能エネルギーを一定期間、固定価格での買い取りが保証される制度で、売電価格の高さから多くの太陽光発電事業者が進出してきた。それから10年以上が経過し、発電不良や効率低下といった経年劣化による不具合が増えてきているという。

発電量の低下は収益減につながるため、売電事業を行う投資家やオーナーは、その対策として「再生事業」に注目している。

再生事業で太陽光発電所の性能向上・効率改善

「再生事業」とは、発電設備の性能向上や効率改善のために行われる作業やプロジェクトの総称。具体的な対策としてはモジュールの交換やインバータの更新、定期的なメンテナンスのほか、最新の技術やノウハウを取り入れて設備を最適化することも考慮する。

これら対策を実施することで、古くなつた発電所でも性能を向上させ、より長期にわたって安定した発電が可能となる。ただし、コストや技術的な課題もあるため、慎重な検討が必要だ。

再生事業で発電増へ



ブルースカイソーラーでは発電所の新規開発だけでなく、再生事業にも積極的に取り組む。

太陽光発電で再生事業を行う3つのメリット

新製品の導入により発電効率向上と売電収入アップ

機器の交換によりメンテナンスの低減・効率化

経年劣化による事故や火災などのリスクを抑える



全国で太陽光発電所を開発を手掛けるブルースカイソーラーでも、再生事業に積極的に取り組んでいる。同社の主な手法は、太陽光パネルを片面タイプから両面タイプへ取り換え、反射シートを敷設することで発電量の向上とメンテナンス

の効率化を図り、パワーコンディショナを集中型から分散型へ交換し、故障時のリスクを低く抑えている。これにより、これまでに47万所、約62メガワットの太陽光発電所で再生事業工事を完了し、2024年は110万所、150メガワットを大幅に超える見込みだ。

太陽光発電の未来を拓く

BLUE SKY SOLAR

ブルースカイソーラー

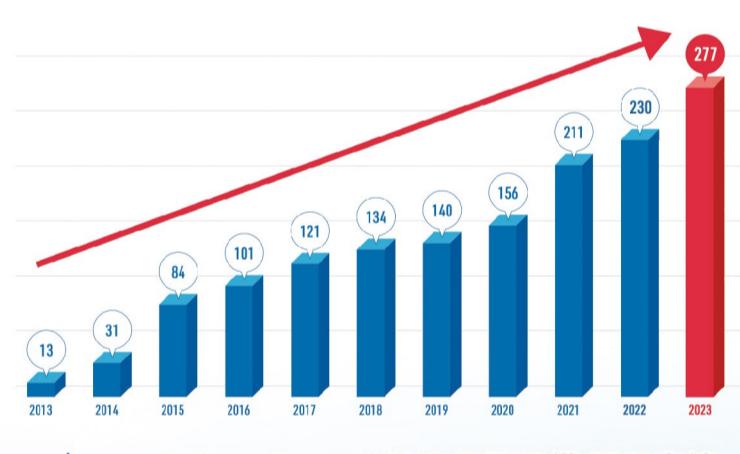
昨年4月に体制を一新し、国内資本100%の会社となったブルースカイソーラー株式会社(東京都港区)は、最も勢いのある太陽光発電事業者ひとつだ。

同社は、「FJT制度(固定価格買取制度)」を活用した特別高圧・高圧太陽光発電所を中心にして、2009年の創業以来、累計111ヶ所、277メガワット以上の開発実績を有しそのうち157メガワットをグループで所有している。近年は、固定価格買取制度を活用しな

い非FJTの太陽光発電所開発も展開。大坂ガスと太陽光発電所の共同開発・保有で合意し、国内10カ所・計8メガワットの非FJT太陽光発電所が稼働している。今後再生可能エネルギーの需要に応じて、電力小売り会社や再エネ電力を使う一般企業との取引も拡げていく方針だ。

ほかにもO&M(運用・保守)事業では、内トップクラスのシェアを誇る。

ブルースカイソーラーでは、2013年より全国に合計で277メガワット、111ヶ所の太陽光発電設備を開発。(2023年12月現在)



再生事業といえばブルースカイソーラー



ブルースカイソーラーの再生事業

- 古くなった発電所に再生事業を施すことで発電量が1.3倍に
- (当社発電所実績)
- 反射性の高い防草シートによる防草効果でO&M費も削減



設置後10年経過した太陽光発電所をお持ちの場合は今すぐご相談ください ▶▶▶

BLUE SKY SOLAR

ブルースカイソーラー株式会社
〒105-7108 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター 8F
TEL: 03-6261-3384 (代)
HP: <https://www.blueskysolar.co.jp/>

